

## マルマ語会話文資料

藤原敬介

京都大学

主要語句：マルマ語、ビルマ語、音韻論、形態論、形態統語論

### 1 はじめに

本稿ではバングラデシュ・チッタゴン丘陵でマルマ人 (Marma: 仏教徒、人口 20 万人ほど) によってはなされるマルマ語 (チベット・ビルマ語派ビルマ語群) の会話文を紹介する。この会話文はビルマ語の教科書である加藤 [2015] にみられる全 20 課の会話文をマルマ語に翻訳したものである<sup>注1</sup>。マルマ語はビルマ語アラカン方言とちかい関係にある言語である。標準的なビルマ語 (以下、単にビルマ語とする) の単語を同源形式のマルマ語におきかえれば意味が通じることがおおい。ただし、文法形式を中心に、ビルマ語とマルマ語とで同源形式ではないばあいも散見される。なお、マルマ語とビルマ語アラカン方言とはある程度相互理解が可能であるとおもわれるけれども、ビルマ語とは発音の乖離がおおきく、相互理解が不可能である。マルマ語話者が標準ビルマ語にふれる機会は通常はなく<sup>注2</sup>、ビルマ語話者がマルマ語にふれることもない。マルマ語話者の大半はバングラ語 (ベンガル語) との二言語話者であり、マルマ語の中にはバングラ語からの借用語も多数みられる。

翻訳にあたっては、筆者にマルマ語をおしえてくれているオン・チャイン・ヌン・マルマさん (?oŋtʃáin̄n̄n̄ marəma: 1978 生、ラージョストリ出身) にご協力いただいた。

マルマ語の資料としては Bernot [1966] が民話を紹介し、フランス語とマルマ語の対訳をあげている。ただし言語学的な分析はなされていない。筆者によるものとしては、マルマ語の機能語をみつかった Huziwara [2008] の附録として語釈をつけた民話を一編提示したことがあるほか、藤原 [2015] でもチャック語の民話と比較する形式で紹介したことがある。マルマ語文法についてまとめた記述は存在しないけれども、Bernot [1958] や藤原 [2003] は音韻論をあつかい、Huziwara [2011] は名詞化を中心に文法の概略をのべている<sup>注3</sup>。このほか、社会言

<sup>注1</sup> 加藤 [2015] はビルマ語圏での言語調査において文法調査票としても使用しうる。たとえば Kurabe [2012] は、加藤 [2015] の旧版である加藤 [1998] にみられる会話文をジンポー語に翻訳し、訳注をつけたものである。

<sup>注2</sup> マルマ人は仏教徒であり、説法はマルマ人の僧によってマルマ語でおこなわれる。僧の中にはビルマで修行してきた人もおおい。そのような僧の言語には、ビルマ語の影響がみられることがある。ビルマで修行した僧を通じて、一部のビルマ語がマルマ人社会にはいつてきている可能性はある。近年はビルマのテレビ番組やインターネットの動画サイト、あるいは市販される DVD などビルマ語にふれる機会もありうる。ただし、大多数のマルマ語話者は、ビルマ語と直接接触することなく生活している。なお、マルマ人は伝統的にはビルマ文字を使用しているけれども、マルマ人の中でビルマ文字のよみかきができる人は、特別な教育をうけた人にかぎられる。マルマ人の文字については藤原 [2011] も参照。

<sup>注3</sup> Ashaduzzaman & Rashel [2007-2008] は文法形式の概略を提示しているけれども、音素分析がなされておらず、このままの形式で資料として利用するのは困難である。

語学的な研究として Maggard et al. [2007]、ビルマ語とラカイン語との比較音韻論をあつかった Davis [2014] などにマルマ語についての記述がみられる。

## 2 表記上の注意

本稿におけるマルマ語は筆者による音素表記である。

音素は /p, ph, b, t, th, d, c, ch, j, k, kh, g, ʔ, θ, ʃ, h, m, hm, n, hn, ŋ, hŋ, l, hl, r, hr, w, y; i, e, a, ɔ, o, u, ə/ である。音節構造は (C<sub>0</sub>ə)C<sub>1</sub>(C<sub>2</sub>)(C<sub>3</sub>)V<sub>1</sub>V<sub>2</sub>(C<sub>4</sub>) とまとめることができる。(C<sub>0</sub>ə) は軽音節であり、固有の声調をもつことはない。C<sub>0</sub> には /hm, hl/ をのぞくすべての子音が確認されている。C<sub>1</sub> にはすべての子音があらわれうる。C<sub>2</sub> には /r, w, y/ が、C<sub>3</sub> には /w/ が、C<sub>4</sub> には /ʔ, ŋ/ があらわれうる。V<sub>1</sub> にはすべての母音が、V<sub>2</sub> には /i, u/ のみがあらわれうる。ただし、V<sub>1</sub>V<sub>2</sub> のくみあわせとしてありうるのは /ai, oi, ɔi, ou/ のみであり、原則としてはいずれも閉音節であられる<sup>注4</sup>。声調としては低声調（アクセント記号なし）と高声調（鋭アクセント記号 ´ でしめす）、上昇調<sup>注5</sup>（曲アクセント記号 ˘ でしめす）が弁別的である。

マルマ語には、ビルマ語と同様に、有声交替（voicing alternation）とよばれる現象がある。有声交替とは無声閉鎖音の語頭子音が複合語を形成して語中にあらわれるとき、対応する有声閉鎖音に変化する現象のことである。有声交替しうる子音のくみあわせは次のとおりである：*p > b, t > d, c > j, k > g*<sup>注6</sup>。ただし、声門閉鎖音の後では有声交替しない。たとえば使役をあらわす *-ci/-ji* “-CAUS” は、声門閉鎖音のあとでは *θɔʔ-ci* “drink-CAUS” のように、それ以外の環境では *cá-ji* “eat-CAUS” のようにあらわれる。なお本稿では、有声交替しうる語であっても、文中であらわれている形式で言及する。

## 3 マルマ語会話文

以下の会話文は加藤 [2015] にみられる会話文をマルマ語に翻訳したものである。例文番号は加藤 [2015] での課に対応する。たとえば (1) は第一課の会話文である。日本語訳は、多少不自然であっても、逐語訳にちかい訳をつけるようにした。なお、バングラデシュでの実態にあわせて、加藤 [2015] にみられる地名などを変更している箇所がある。また、必要に応じて初出時に注をつけている。たとえば *jə* “what” が *ja* “what” の縮約形式であることは (7) A5 で指摘するので、(20) A1 で同様の訳注をつけることはしない。

<sup>注4</sup> 原則にあわないものについては適宜訳注でのべる。

<sup>注5</sup> 上昇調において母音は緊喉母音となる。標準的なビルマ語の下降調に対応する。なお、ビルマの南東端ではなされるメルギー方言 [Kato 2012] やパロー方言 [大塚 2014] でも、緊喉母音は上昇調である。標準的なビルマ語をはさんで西側のマルマ語と東側のメルギー方言やパロー方言でみられる上昇調が古形である可能性を、この事実は示唆する。

<sup>注6</sup> Bernot [1958] には *θ > ɔ* という交替もみられる。しかし、筆者の観察の範囲では、確認されない。なお、ビルマ語では無声有気音類も対応する有声無気音類に変化する。しかし筆者が観察しているマルマ語ではそのような語例が確認されていない。また、ビルマ語では綴字上の無声子音が語中で有声化することにともない、先行する軽声音節の初頭子音までが綴字上は無声子音であっても有声化する。しかし、マルマ語においては軽声音節の初頭子音までが有声化することはない：‘language’ WrB <ca\_kaa>, SpB [zəgá], Marma cəgá.

(1)A1: *de θu ʔúŋbaŋ =lɔʔ*

this thing coconut.tree =PQ

これはココヤシの木ですか

注 1 マルマ語の指示詞には三種類ある。すなわち近称の *de*、中称の *yáŋ*、遠称の *thú* である。

注 2 *θu* は人に対しても物に対しても使用されうる。ここでは物をさしている。

注 3 *=lɔʔ* “=PQ” は、口語ビルマ語の *=lá* ではなく、文語ビルマ語の *=lɔʔ* と対応する。このように、マルマ語の形式は文語ビルマ語と対応することがある。

B1: *mə- houʔ (=pa)*.

NEG be.right =POL

いいえ

注 1 マルマ語の否定文では、動詞の直前に否定辞をつけるだけでよい。ビルマ語では、動詞の直前に否定辞がくるだけでなく、動詞のあとにも否定文であることをしめす標識があらわれる。

注 2 ビルマ語において丁寧の *=pa* は頻繁にもちいられる。だがマルマ語においては *=pa* がないからといって特にぞんざいな表現ということはない。*=pa* はあまりもちいられない。本稿において *=pa/=ba* “=POL” がほとんどあらわれないのは、そのためである。

B2: *yáŋ θu tháŋbaŋ (=ba)*.

that thing toddy.palm.tree =POL

それはオウギヤシの木です

A2: *de θu ja =léʔ*

this thing what =CQ

これは何ですか

B3: *yáŋ θu θəraʔpaŋ (=ba)*.

that thing mango.tree =POL

それはマンゴーの木です

(2)A1: *măphru niŋ kóŋ (=re) =lɔʔ*

PSN stay be.good =RLS =PQ

マー・プルー、元気ですか

注 *niŋ* “stay” は、ビルマ語では *ne* に対応する。マルマ語においては、頭子音が鼻子音であり母音が高母音であるとき、語末に *-ŋ* があらわれる。

B1: *niŋ kóŋ =re*.

stay be.good =RLS

元気です

B2: *ʔəŋthwáin =gá?*

PSN =TOP  
オン・トワインは

注 ビルマ語原文では文末は=*gá*である。このビルマ語形式に語源的に直接対応するマルマ語は未確認である。

A2: *nij kón =re.*

stay be.good =RLS  
元気です

A3: *ŋa ʔəgǔ jí lá =phǒ.*

1 now market go =FUT  
私は今市場に行きます

注 1 マルマ語の人称詞としては、一人称 *ŋa* (普通体)、*kywaindo* (謙讓体)、二人称 *maiʔ* (目下の男性)、*naj* (目下の女性)、*kobaj* (敬体)、三人称 *de θu* (この人)、*yáj θu* (その人) などがある。いずれも語類としては名詞に属する。これらの人称詞は文中の必須要素ではない。文脈から理解可能であれば、明示的にはあらわれないことのほうがおおい。

注 2 未来の出来事をあらわすばあい、ビルマ語では非現実法が多用されるけれども、マルマ語においては未来標識の=*phǒ*が多用される。=*phǒ*は、話者が未来においておこなわれると確信をもっているばあいに使用される傾向にある。確信度がひくいばあいには、非現実法の=*me* が使用される傾向にある。

A4: *loiʔ =phǒ =lǒ?*

follow =FUT =PQ  
ついて来ますか

B3: *houʔ =te.*

be.right =RLS  
はい

注 1 肯定の返事としては、ほかに *ʔij* や *ʔoi* がある。*ʔoi* は、開音節で二重母音があらわる例外的な語例である。

注 2 =*te* “=RLS” は声門閉鎖音の後でのみあらわれる。その他の環境では=*re* “=RLS” があらわれる。両者は相補分布している。語源的にも関連しているとおもわれる。ただし共時的には、*t* と *r* が交替する例がほかに確認されていない。

B4: *loiʔ =phǒ.*

follow =FUT  
ついて行きます

B5: *ŋa =lé ʔəgǔ jí lá =phǒ pyaj -nij =re.*

1 =too now market go =FUT do -CONT =RLS  
私も今市場に行こうとしていたところです

注 *-nij* “-CONT” は動詞 *nij* “stay” が助動詞として使用されているものである。このように、マルマ語の助動詞のおおくは、動詞が文法化したものである。

(3)A1: *ʔəŋthwáij, ja cá =phǒ =lé?*

PSN what eat =FUT =CQ  
オン・トワイン、何を食べますか

B1: *ŋa wəʔθáháj cá =phǒ.*

1 pig.meat.dish eat =FUT  
私は豚肉のおかずを食べます

B2: *mǎphru =lé wəʔθáháj cá =phǒ =lǒ?*

PSN =too pig.meat.dish eat =FUT =PQ  
マー・プルーも豚肉のおかずを食べますか

A2: *mə- cá.*

NEG- eat  
食べません

A3: *ŋa wəʔθá mə- krɔi?*

1 pig.meat NEG- like  
私は豚肉が好きではありません

B3: *ja háŋ krɔi? (=te) =lé?*

what dish like =RLS =CQ  
何のおかずが好きですか

A4: *kraʔθáháj krɔi? =te.*

chicken.meat.dish like =RLS  
鶏肉のおかずが好きです

(4)A1: *thəmóŋ cá -brí =bya =lǒ?*

rice eat -end =PRF =PQ  
ご飯をもう食べましたか

注 1 *thəmóŋ* “rice” は、ビルマ語の綴字からは *thəmáj* となることが予想される。*thəmóŋ* という形式は、むしろビルマ語アラカン方言にちかい。

注 2 *-brí* “-end” は動詞 *brí* “end” が助動詞として使用されているものである。この動詞は *=bya* “=PRF” と関係しているかもしれない。

B1: *cá -brí =bya.*

eat -end =PRF  
もう食べました

B2: *mǎphru =gá?*

PSN =TOP  
マー・プルーは

A2: *mə- cá -rǎ =θǐ.*

NEG- eat -can =still

まだ食べていません

注 *-rǎ* “-can” は動詞 *rǎ* “get” が助動詞として使用されているものである。文脈により “-can” の意味にもなれば、たとえば (8) B5 のように “-must” の意味にもなる。

A3: *ŋa mwai? -niŋ =bya.*

1 get.hungry -CONT =PRF

私はもうお腹が空いてしまっています

B3: *yə =pɔiŋ cho =ge, ŋa mǔŋdi kywé =phǒ.*

that =ESS say =COND 1 rice.noodle treat =FUT

そのように言うなら、私が米麺をおごります

注 *yə* は *yáŋ* “that” が縮約した形式である。*yə=pɔiŋ cho=ge* “that=ESS say=COND” は *hlɔ? =ke* “?=COND” ともいう。*hlɔ?* 単独の意味は不明である。

A4: *?əcɔi? =lɔ?*

real =PQ

本当ですか

注 *?əhmainj=lɔ?* “right=PQ” ということもできる。

A5: *ja =ma =lé?*

what =LOC =CQ

どこですか

注 マルマ語の *=ma* “=LOC” は、ビルマ語では無声鼻音をもつ *=hma* で対応する。

B4: *?əpha?θá +choiŋ =ma.*

friend +shop =LOC

友人の店で

B5: *cá =rǒ kóŋgóŋ kóŋ =re.*

eat =SEQ very be.good =RLS

食べてとても良いです

B6: *hlɔ? =ke, loi? +la.*

? =COND follow +come

では、ついて来てください

注 *loi?+la* “follow+come” は *loi?-lai* “follow-come.IMP” ということもできる。*lai* は命令文でのみ使用される特別な形式であり、開音節で二重母音があらわれる例外的な形式でもある。

(5)A1: *ŋa hna?phraiŋ khəri thwɔ? =phǒ.*

1 tomorrow travel go.out =FUT

私は明日旅に出ます

B1: *ja =dō lá =phō =lé?*

what =ALL go =FUT =CQ

どちらに行きますか

注 *ja=dō* “what=ALL” は *ja=go* “what=OBJ” ということもできる。一般に移動の目的地を標示するには方向格と目的格のいずれを使用してもよい。

B2: *phəlólŋkhyoi? =lō?*

PLN =PQ

コックス・バザールですか

注 *phəlólŋkhyoi?* は *phəlólŋ* “gentleman; Westerner” + *khyoi?* “hold” と分析できる。東インド会社の役人であった Hiram Cox (1760–1799) が赴任した土地であるところからコックス・バザール (Cox’s Bazar) とよばれるようになった。マルマ語では、人名そのものではなく「西洋人」という単語を使用している。なお、倉部慶太氏によると、*phəlólŋ* という形式は、タイ語の [falàŋ] “a person of white race” と同源形式ではないか、ということである。

A2: *mə- hou?*

NEG- be.right

いいえ

A3: *coi?təgólŋ lá =phō.*

PLN go =FUT

チッタゴンに行きます

注 チッタゴン (Chittagong) はバングラデシュ第二の都市であり、マルマ人が居住するチッタゴン丘陵からちかい港町である。

B3: *ja =nă lá =phō =lé?*

what =COM go =FUT =CQ

何で行きますか

注 *=nă* “=COM” は道具をあらわすこともできる。なお、共同格としての用法は (5) B4 などにみられる。

A4: *garí =nă lá =phō.*

car =COM go =FUT

車でいきます

A5: *garí +tikai? =lé we -brí =bya.*

car +ticket =too buy -end =PRF

車の切符もすでに買いました

B4: *?əθū =nă lá =phō =lé?*

who.OBL =COM go =FUT =CQ

誰と行きますか

注 *?əθū* “who.OBL” は *?əθu* “who” の斜格である。助詞の直前で低平調が上昇調に変調する。類似した現象はビルマ語にもみられる。

A5: *ʔəphaʔθá =nǎ ʔətu lá =phǒ.*

friend =COM together go =FUT  
友人と一緒にいきます

(6)A1: *mǎphru, ʔəphǎ =gá ja ʔəlou? lou? =ca =lé?*

PSN father =TOP what work(n) work(v) =NMLS =CQ  
マー・プルー、お父さんは何の仕事をしているのですか

B1: *kuɸpaní =ma lou? =te.*

company =LOC work(v) =RLS  
会社で働いています

A2: *ʔəmwĩŋ =gá ja lou? =ca =lé?*

mother =TOP what work(v) =NMLS =CQ  
お母さんは何をしていますか

B2: *jí róŋ =re.*

market sell =RLS  
商売しています

B3: *ʔəmyúmyú waiŋ róŋ =re.*

various article sell =RLS  
いろいろな物を売っています

A3: *ja =ma róŋ =ca =lé?*

what =LOC sell =NMLS =CQ  
どこで売っているのですか

B4: *jí =thé =ma róŋ =re.*

market =place.inside =LOC sell =RLS  
市場の中で売っています

B5: *ʔəmwĩŋ +chwiŋ =gá lu krwi? myá =re.*

mother +shop =TOP man like be.many =RLS  
母の店は好きな人が多いです

(7)A1: *mǎprhu =ma jəpaiŋ +caʔou? hiŋ =re =ló?*

PSN =LOC Japan +book exist =RLS =PQ  
マー・プルーのところには日本の本がありますか

注 マルマ語における所有表現は“A=ma B hiŋ=re”「A のところに B がある (A は B をもっている)」と表現する。

B1: *hiŋ =re.*

exist =RLS  
あります



A2: *hmya =?ou? hĩj =re =lé?*

how.much =CL:book exist =RLS =CQ

何冊ありますか

注 マルマ語における類別詞は単独では使用されない。(7) A2 のように疑問語とともに、または (7) B2 のように数詞とともに使用される。なお、類別詞は通常は「数詞-類別詞」の辞順で使用される。ただし、一の位が零となる数 (位どりの単位の数) 数をかぞえるときには「名詞-bóŋ|-póŋ 数詞」または「名詞 + ?ə-類別詞 数詞」という形式が使用される。たとえば「二十人」は、次のように表現されうる: (A) *lu-bóŋ hnoĩ?+che* “man-COL two+ten”, (B) *lu+?ə-yo? hnoĩ?+che* “man+PRFX-CL:man two+ten”。

B2: *che =?ou? =hlo? hĩj =re.*

ten =CL:book =almost exist =RLS

十冊ほどあります

A3: *myá =re =hnóŋ.*

be.many =RLS =SFP

たくさんですね

注 *=hnóŋ* は *=hnó* や *məhnó* ともいえる。

A4: *ŋǎ =ma tə =?ou? =té hĩj =re.*

1.OBL =LOC one =CL:book =only exist =RLS

私のところには一冊だけあります

注 1 *tə* は *toi?* “one” が弱化した形式である。

注 2 *=té* “=EMPH” は類別詞にのみ付加する。

A5: *jə =pɔiŋ pyaŋ =rǒ rǎ =ca =lé?*

what =ESS do =SEQ get =NMLS =CQ

どのようにして手に入れたのですか

注 *jə=pɔiŋ* “what=ESS” は *ja=pɔiŋ* “what=ESS” が縮約した形式である。

B3: *?əpha?θá tə =yo? jəpaiŋ =gǎ pǒ =rǒ pí =re.*

friend one =CL:man Japan =ABL send =SEQ give =RLS

友人が一人日本から送ってくれました

注 加藤 [2015] では動詞連続で表現されているところでも、マルマ語では動詞連続をもちいず、*=rǒ* “=SEQ” (日本語の「テ形」に相当) が多用される傾向にある。マルマ語と隣接するビルマ語アラカン方言でも類似した傾向があり、インド・アリア語との接触による影響が示唆されている [Vittrant 2015]。動詞連続ではなく副動詞を使用することは、地域的な特徴といえるかもしれない。

(8)A1: *?ɔŋthwáiŋ de niŋ ja =dǒ lá -khyaj =re =lé?*

PSN this day what =ALL go -want =RLS =CQ

オン・トワインは今日どこへ行きたいですか

注 *de niŋ* “this day” は *ŋəniŋ* “today” ともいう。

B1: *ŋa de n̄iŋ balǎgáta +jadi =dǒ lá -khyaj =re.*

1 this day PLN +pagoda =ALL go -want =RLS

私は今日バラガタ・パゴダへ行きたいです

注 *balǎgáta+jadi* は、マルマ人の中心都市であるバンドルバン (Bandarban: マルマ語では *rwado*) の郊外にある仏塔。

B2: *de =gǎ garí =nǎ lá -rǎ =re =lǒ?*

this =ABL car =COM go -must =RLS =PQ

ここから車で行かなければなりませんか

注 *de=gǎ* “this=ABL” は弱化して *də=gǎ* と発音されることもある。

A2: *garí =nǎ lá =phǒ mǎ- lo.*

car =COM go =FUT NEG- need

車で行く必要はありません

注 *mǎ-lo* “NEG-need” は *ʔəlo mǎ-h̄iŋ* “need NEG-exist” ということもできる。

A3: *balǎgáta +jadi =gá pá =re.*

PLN +pagoda =TOP be.near =RLS

バラガタ・パゴダは近いです

注 *pá=re* “be.near=RLS” は *ʔəpáfe* “near(n)” ということもできる。

A4: *θwá =rǒ lá =phǒ rǎ =re.*

walk =SEQ go =FUT can =RLS

歩いて行くことができます

注 *θwá* “walk” に語源的に対応するビルマ語は「行く」という意味で使用される。*lá* “go” に語源的に対応するビルマ語は、あまり使用されない。

B3: *dǒdǒlé ŋa dəgǔ ʔəkhri na (-niŋ) =re.*

however 1 now foot pain(v) -CONT =RLS

しかし、私は今足が痛いです

B4: *riʔfa =nǎ lá -hnciŋ =re =lǒ?*

rickshaw =COM go -can =RLS =PQ

リキシャで行くことができますか

注 *-hnciŋ* は可能をあらわす助動詞である。本動詞としては無声鼻音ではない *nciŋ* “be.able.to” という形式が使用される。

A5: *lá -hnciŋ =re.*

go -can =RLS

行くことができます

A6: *yáj =pɔiŋ cho =ge, riʔfa =nǎ lá =phǒ.*

that =ESS say =COND rickshaw =COM go =FUT

そのように言うなら、リキシャで行きます

B5: *ja =hloʔ pí -rǎ =phǒ =léʔ*

what =almost give -must =FUT =CQ

どれくらい (お金を) あげるべきですか

A7: *ŋá +che =hloʔ pí -rǎ =phǒ.*

five +ten =almost give -must =FUT

50 (タカ : バングラデシュの通貨単位) くらいあげないといけないでしょう

(9)A1: *ʔəme, de (ʔə)ná =ma tibi róŋ =ca choiŋ hǐŋ =re =lóʔ*

sister.VOC this place.beside =LOC TV sell =NMLS shop exist =RLS =PQ

姉さん、この近くにテレビを売る店はありますか

注 1 *ʔəme* “sister.VOC” は年長の女性に対する呼びかけ語。

注 2 マルマ語における名詞修飾表現では、動詞句に名詞化標識=*ca* (または未来標識=*phǒ*) がついた名詞修飾節が主要部名詞に先行する。いわゆる (A) 「内の関係」と (B) 「外の関係」のいずれもが可能である: (A) 「彼が食べた魚」 *θu cá=ca ŋá* “3 eat=NMLS fish”、(B) 「魚を焼いたにおい」 *ŋá kaŋ=ca ʔəco* “fish grill=NMLS smell”。

B1: *hǐŋ =re.*

exist =RLS

あります

B2: *ʔəgũ garí thwoʔ -khǎ =ca nera +bá =ma hǐŋ =re.*

now car go.out -VEN =NMLS place +be.near =LOC exist =RLS

今、車が出てきた場所の近くにいます

注 *+bá* “+be.near” は *pá* “be.near” の頭子音が複合語内で有声化した形式。

B3: *twĩ =lóʔ*

meet =PQ

見えますか

A2: *houʔ =te.*

be.right =RLS

はい

A3: *twĩ =bya.*

meet =PRF

見えました

A4: *ŋa tibi +ʔəgrí lo -khyaŋ =re.*

1 TV +big need -want =RLS

私はテレビの大きいのが欲しいです

A5: *yáy choiŋ =ma tibi +ʔəgrí hǐŋ =re =lóʔ*

that shop =LOC TV +big exist =RLS =PQ

その店にテレビの大きなのはありますか

B4: *thú chɔiŋ =ma ʔəgrí =ca mə- hĩŋ (=hrö) thaŋ =re.*

that shop =LOC big =DEF NEG- exist =QUOT think =RLS

その店に大きなのではないと思います

注 1 =ca は、一般的には動詞に後続して名詞化する機能をもつ。ただし、ここでみられるように、名詞に後続して定辞としても機能しうる。=ca のさまざまな用法について詳細は Huziwara [2011] を参照。

注 2 (=hrö) “=QUOT” は=höまたは=phöともいえる。

B5: *ʔəfe cho =ge, hĩŋ -hɔiŋ =re.*

small say =COND exist -can =RLS

小さいのならありえます

A6: *houʔ =lɔʔ*

be.right =PQ

本当ですか

A7: *ja =baŋ phrɔiʔ -li, lá +krě =phö.*

what =EMPH become -CMPL go +watch =FUT

ともあれ、行ってみます

注 -li は、たとえば (11) A3 などにみられるように、しばしば過去の標識として使用される。しかし、この用例のようにかならずしも過去の事態をあらわすとはいえない用例もあることから、本稿では CMPL という語釈をつけている。

A8: *kijũ taŋ =re.*

thank put.on =RLS

ありがとうございます

B6: *taŋ -θá mə- hĩŋ.*

put.on -need.NMLS NEG- exist

そうする必要はありません

注 *taŋ-θá* “put.on-need.NMLS” のかわりに *prɔ-θá* “say-need.NMLS” ということもできる。

(10)A1: *mɔŋhlǎ =gá búthí yu =rö pí =re.*

PSN =TOP calabash.fruit take =SEQ give =RLS

モン・ラーがユウガオの実をもってきてくれました

A2: *búthí =go bəjɔŋ cá -rǎ =phö =léʔ*

calabash.fruit =OBJ how eat -can =FUT =CQ

ユウガオの実はどのように食べられますか

A3: *de =ʔətɔiŋ kɔiʔ =rö cá -rǎ =ca =lɔʔ*

this =ESS bite =SEQ eat -can =NMLS =PQ

このまま噛んで食べるのですか

B1: *mə- cá -rǎ.*

NEG- eat -can

食べられません

B2: *ʔəkhwaiŋ khwa =rǒ cá -rǎ =phǒ.*

skin.of.fruit peel =SEQ eat -must =FUT

皮を剥いて食べないといけません

B3: *búθí =gá prouʔ =rǒ cá =ge, kóŋ =re.*

calabash.fruit =TOP boil =SEQ eat =COND be.good =RLS

ユウガオの実は煮て食べるとおいしいです

注 ユウガオの実はビルマでは油で揚げて食べることがおいしい。しかしチッタゴン丘陵では油で揚げることはない。湯で煮て食べる。

B4: *cá -khyay =ge, ʔəgǔ prouʔ =rǒ pí =phǒ.*

eat -want =COND now boil =SEQ give =FUT

食べたければ、今、煮てあげます

B5: *prouʔ -prí =bya.*

boil -end =PRF

もう煮終わりました

B6: *mré +krě =mai.*

taste(v) +watch =HRT

味見してみてください

注 =mai “=HRT” は開音節で二重母音があらわれる例外的な語例である。

A4: *kóŋ =phǒ =puŋ.*

be.good =FUT =shape

おいしそうです

注 文末の =puŋ “=shape” は「～のようだ・～しそうだ」という意味。 =phǒ “=FUT” だけでなく、 =re “=RLS” も先行しうる: 「雨がふりそうだ」 *mú rwa=phǒ=puŋ* “rain rain(v)=FUT=shape”, 「雨がふったようだ」 *mú rwa=re=puŋ* “rain rain(v)=RLS=shape”。 =re のあとには有声交替した =buŋ という形式があらわれてもよい。また、 =ca “=NMLS” が先行するときは、有声交替した =buŋ という形式のみがあらわれる: 「雨がふったようだ」 *mú rwa=ca=buŋ* “rain rain(v)=NMLS=shape”。

B7: *de ʔəkhyciŋre =nǎ tǒ =rǒ cá =mai.*

this sauce =COM dip =SEQ eat =HRT

このソースをつけて食べてください

B8: *jə =pɔiŋ =lé?*

what =ESS =CQ

どうですか

A5: *kóηgóη kóη =re.*

very be.good =RLS  
とても良いです

A6: *măphru jəpaiη lá =rö yáy =ma róη =ge, kóη =phö.*

PSN Japan go =SEQ that =LOC sell =COND be.good =FUT  
マー・プルーさんは日本に行って、そこで売れば良いです

A7: *kóηgóη róη -ră =phö.*

very sell -can =FUT  
とても売れるでしょう

B9: *mə- hmröη =gě.*

NEG- elevate =NEG.IMP  
持ち上げないでください (お世辞を言わないでください)

(11)A1: *θəmwíη, de ηəñíη kyóη mə- lá =ló?*

daughter this today school NEG- go =PQ  
娘よ、今日は学校に行かないのかい

B1: *ηəñíη kyóη poi? =rama lá =phö mə- lo.*

today school close =because go =FUT NEG- need  
今日は学校が閉まっているので、行く必要がありません  
注 =rama “=because” は =ra=ma “=place=LOC” と分析しうる (加藤昌彦氏の指摘による)。

B2: *ʔəba =lé yúη mə- lá =ló?*

father =too office NEG- go =PQ  
父さんも会社に行かないの

A2: *ηəñíη ʔəwáíη na =rama mə- lá =bya.*

today belly pain(v) =because NEG- go =PRF  
今日はお腹が痛いのもう行かなかった

A3: *ηyăgă mŭŋdi ʔəmyágrí cá -li =rama.*

yesterday rice.noodle very.much eat -CMPL =because  
昨日、米麺をたくさん食べたので

B3: *ʔəba =gá =lé kyáíηmarí =go tə =phě =hló? θədī prŭ =mai.*

father =TOP =too health =OBJ one =CL:piece =almost attention do =HRT  
お父さんも健康に少くらい注意してください

A4: *θədī prŭ =gələ =θó? phrói? -ləkhă =re.*

attention do =even =up.to become -CMPL.VEN =RLS  
注意しても、(腹痛に) なってしまった

注 1 =gələ “=even” は =ge=lé “=COND=too” が縮約した形式であると推定される。

注 2 -ləkhă “-CMPL.VEN” は lá-khă “go-VEN” が縮約した形式であると話者から説明

されることがある。ただし、縮約していない形式は未確認である。

A5: *mə- tá -hnoij.*

NEG- oppose -can

どうしようもない

B4: *?əba =go ?əmwij təkhatəri chu =gələ =θə? lújwă ná mə- thoŋ =hnoŋ.*

father =OBJ mother often scold =even =up.to absolutely ear NEG- ear.listen =SFP

お父さんをお母さんがしばしば叱るのに、まったく聞かないですね

注 *ná+thoŋ* は全体で「聞く」という意味である。*ná*は名詞であり単独で「耳」という意味がある。他方、*thoŋ* が動詞であることは否定辞の *mə-*が前接することからわかるけれども、単独では「聞く」という意味にはならない。

B5: *kóŋgóŋ kha? =ca =məhnó.*

very be.difficult =NMLS =SFP

とてもむずかしいですね、もう

注 *məhnó*は否定辞の *mə-*に文末助詞の *hnó*がついたものと分析しうる。ただし、否定辞は動詞につくのが通則であり、文末助詞につく例は他に確認されていない。そこで本稿では全体をひとつの文末助詞と解釈している。

A6: *wij =ma ?əmwij hnoŋ? =yɔ? hŋ =ca =poij =hnoŋ.*

house =LOC mother two =CL:man exist =NMLS =ESS =SFP

家にお母さんが二人いるようだなあ

(12)A1: *ŋa mroi? =ná =go lá -khyəŋ =re.*

1 sea =place.beside =OBJ go -want =RLS

私は海のそばに行きたいです

A2: *phəlónkhyoi? =nă ?əwăgywáij ja θu po kóŋ =lé?*

PLN =COM PLN what thing be.more be.good =CQ

コックス・バザールとポトゥアカリではどちらがより良いですか

注 *?əwăgywáij* は、*?əwă* “mouth” と *kywáij* “island” からなる複合語と分析しうる。バングラデシュでポトゥアカリ (Patuakhali) として知られるこの地は、ガンジス河の河口にあり、いくつもの島のようにつらなっている地域である。

B1: *phəlónkhyoi? =ká ?əwăgywáij =tha? po (=rǝ) kóŋ =re thaŋ =re.*

PLN =TOP PLN =than be.more =SEQ be.good =RLS think =RLS

コックス・バザールの方がポトゥアカリよりも良いと思います

B2: *ja =phǝ mroi? =ná =go lá -khyəŋ =ca =lé?*

what =PURP sea =place.beside =OBJ go -want =NMLS =CQ

何のために海のそばに行きたいのですか

A3: *ŋa mroi? (=ko) kóŋgóŋ kroi? =te.*

1 sea =OBJ very like =RLS

私は海がとても好きです

B3: *ŋa =lé =θɔʔ krɔiʔ =te.*

1 =too =up.to like =RLS  
私も好きです

B4: *ŋa rɔʔ -phú =re =ʔəthé =ma fáɪŋmatɪŋ ʔəhlǎ -chúŋ =bya.*

1 arrive -EXP =RLS =place.inside =LOC PLN beautiful -SUPL =PRF  
私が行ったことがある中でセントマーチンが一番美しかったです

注 *fáɪŋmatɪŋ* はセントマーチン島 (St. Martin Island) とよばれるバングラデシュ最南端の島であり、リゾート地である。コックスバザールからちかい。

A4: *houʔ =te =lɔʔ*

be.right =RLS =PQ  
そうですか

A5: *yáj =pɔɪŋ cho =ge, ŋa fáɪŋmatɪŋ lá -khyaj =re.*

that =ESS say =COND 1 PLN go -want =RLS  
そのように言うなら、私はセントマーチンに行きたいです

B5: *ŋǎ wiŋ =ma fáɪŋmatɪŋ =ʔəkrɔŋ =go rwí =ca caʔouʔ hɪŋ =re.*

1.OBL house =LOC PLN =about =OBJ write =NMLS book exist =RLS  
私の家にセントマーチンについて書いた本があります

注 *ŋǎ* は「私」の斜格であるけれども、機能的には所有をあらわす。

B6: *wiŋ =go loiʔ =laiʔ (=pa).*

house =OBJ follow =IMP =POL  
家について来てください

B7: *ʔəgǔ pí -loiʔ =phǒ*

now give -CMPL =FUT.  
今、あげてしまいましょう

注 *-loiʔ* “-CMPL” は動詞 *loiʔ* “follow” が助動詞として使用されているものである。

A6: *ʔá +na =re.*

power +pain(v) =RLS  
すいません

注 *ʔá+na* “power+pain(v)” は全体としては「申し訳ない」という意味。

B8: *ʔá mə- na =gě.*

power NEG- pain(v) =NEG.IMP  
遠慮しないでください

(13)A1: *mǎphru yúdəyǎ =pɔɪŋ prɔ́ -daiʔ (=ca) =lɔʔ*

PSN Thai =ESS speak -can =NMLS =PQ

マー・プルーはタイ人のように (タイ語を) 話すことができますか

注 *-daiʔ* “-can” は動詞 *taiʔ* “know” が助動詞として使用されているものである。能力可能をあらわす。



B1: *mə- prɔ̃ -daiʔ*.

NEG- speak -can  
話すことができません

B2: *mɔ̃ɣhlǎ =gáʔ*

PSN =TOP  
モン・フラーは

A2: *néné (=ra) prɔ̃ -daiʔ =te*.

little.bit =EMPH speak -can =RLS  
少しだけ話すことができます

A3: *ʔəyaŋ =kha tə =hɲɔiʔ =hloʔ θaŋ -phú =re*.

time.before =time.when one =CL:year =almost learn -EXP =RLS  
以前一年ほどやったことがあります

B3: *tərouʔ +cəgá =lé prɔ̃ -daiʔ =te =lɔʔ*

Chinese +language =too speak -can =RLS =PQ  
中国語も話せますか

A3: *tərouʔ +cəgá =gá kɔ̃ŋgɔ̃ŋ prɔ̃ -daiʔ =te*.

Chinese +language =TOP very speak -can =RLS  
中国語はとてもよく話せます

A4: *ʔəfe =kha =gá wiŋ =ná =gǎ tərouʔ +wagrí tə =yɔʔ ŋǎ =go*

small =time.when =TOP house =place.near =ABL Chinese +old.man one =CL:man 1.OBL =OBJ  
*nĩŋdɔ̃ŋ θaŋ +pí =ca*.

everyday learn +give =NMLS

小さい時、家の近くの中国人のおじいさんが毎日私に教えてくれたのです

注 *θaŋ* の意味が “learn” ではなく、ここでは *+pí* “+give” をともなうことにより、“teach” となっている。

B4: *yáŋ =pɔiŋ cho =ge, ʔáŋgəloiʔ =pɔiŋ =lé kɔ̃ŋgɔ̃ŋ prɔ̃ -daiʔ =ca =bya*.

that =ESS say =COND British =ESS =too very speak -can =NMLS =PRF

そのように言うなら、イギリス人のようにも（英語を）とても話すことができるので  
すね

A5: *houʔ =te*.

be.right =RLS  
はい

A6: *prɔ̃ -daiʔ =te*.

speak -can =RLS  
話すことができます

B5: *tɔ̃ =re, tɔ̃ =re*

be.clever =RLS be.clever =RLS  
すごい、すごい

(14)A1: *ʔəŋthwáij =gá tə =haʔtaʔ tə =kha cóŋ +chəra =bóŋ =ma cóŋ taŋ*  
 PSN =TOP one =CL:week one =CL:time guitar +teacher =place.near =LOC guitar learn  
 -nij =re.

-CONT =RLS

オン・トワインは一週間に一度ギターの先生のところでギターを学んでいます

B1: *ʔəŋthwáij nɔʔ tə =haʔtaʔ ja ʔəkhɪij =ma la (=rǒ) taŋ =phǒ =léʔ*

PSN next one =CL:week what time =LOC come =SEQ learn =FUT =CQ

オン・トワインは次の週は何時に来て学びますか

C1: *ŋěgǎ che =nari =hloʔ =ma la -hncɔij =phǒ =lóʔ*

morning ten =CL:hour =almost =LOC come -can =FUT =PQ

朝十時に来ることができますか

注 *ŋěgǎ* “morning” は *ŋě=gǎ* “night=ABL” と分析可能であるとおもわれる。

B2: *ŋǎ =ma ŋěgǎ ʔəkhɪij mə- hɪŋ.*

1.OBL =LOC morning time NEG- exist

私は朝に時間がありません

B3: *mrǒ =thé =go lá -jəra hɪŋ =rama.*

town =place.inside =OBJ go -NMLS:things.to.do exist =because

町の中に行く用事があるので

C2: *yáj =pɔij cho =ge, ŋyǎphaʔ lé =nari =hloʔ =ma rá =phǒ =lóʔ*

that =ESS say =COND afternoon four =CL:hour =almost =LOC can =FUT =PQ

そのように言うなら、午後四時ごろは可能ですか

注 *ŋyǎphaʔ* “afternoon” は *ŋyǎ=phaʔ* “night=direction” と分析可能であるとおもわれる。

B4: *houʔ =te, rá =re.*

be.right =RLS can =RLS

はい、可能です

B5: *yáj =pɔij cho =ge, ŋyǎphaʔ lé =nari =hloʔ =ma khyǎ =phǒ.*

that =ESS say =COND afternoon four =CL:hour =almost =LOC put.down =FUT

そのように言うなら、午後四時にしましょう

B6: *ʔəŋthwáij cóŋ taŋ -rá =ca pyɔ =re =lóʔ*

PSN guitar learn -can =NMLS be.happy =RLS =PQ

オン・トワインはギターを学べるのが楽しいですか

C3: *kóŋgóŋ pyɔ =re, chəra.*

very be.happy =RLS teacher

とても楽しいです、先生

C4: *cóŋ +ʔəθaiŋ =gá kóŋgóŋ ná +thɔŋ =rǒ kóŋ =re.*

guitar +sound =TOP very ear +ear.listen =SEQ be.good =RLS

ギターの音はとても聞き心地が良いです

C5: *yáj =ʔəkrój =ma ɲa kójgój krɔiʔ =te.*

that =reason =LOC 1 very like =RLS  
その理由で、とても好きです

(15)A1: *helo, ʔúkyɔnáij +wiɲ =gǎ =lɔʔ*

hello PSN +house =ABL =PQ

もしもし、ウー・キョー・ナインの家からですか

注 *helo* は電話でもちいられる間投詞である。英語の *hello* がバングラ語の *hælo* 経由で借用されたものとおもわれる。

A2: *mǎphru =nǎ cəgá prɔ -khyaj =re.*

PSN =COM language speak -want =RLS

マー・プルーと話をしたいです

B1: *tə =khyajʔ =fe kɔij +thá.*

one =CL:time =DIM hold +put

しばらく (受話器を) もっておいてください

注 マルマ語において動詞は何らかの述部標識をとまってあらわれる傾向にあることを考慮すると、ゼロ形態素が命令文の標識であるとかんがえることもできる。

C1: *helo.*

hello

もしもし

A3: *helo, mǎphru =lɔʔ*

hello PSN =PQ

もしもし、マー・プルーですか

A4: *ɲyǎgǎ mɔɲhlǎ khwí ʔəkoʔ khajɲ =re =hlaiʔ.*

yesterday PSN dog bite(n) suffer =RLS =HS

昨日モン・フラワーが犬にかまれたそうです

注 1 *ɲyǎgǎ* “yesterday” は *ɲyǎ=gǎ* “night=ABL” と分析可能であるとおもわれる。

注 2 マルマ語において受身的な表現は「被動作主-動作主 ʔə-動詞 *khajɲ* “suffer”」の形式で表現される。

A5: *ʔəgũ θu =dö ʔətudu lá =rö ʔá pí -gaiʔ -rǎ =phö.*

now 3 =ALL together go =SEQ power give -VPL -must =FUT

今、彼のところに一緒に行って、元気づけないと (力をあげないと) いけません

注 *-gaiʔ* “-VPL” は動詞があらわす動作の主体が複数いることをしめす。

C2: *houʔ =te, lá =phö =hnój.*

be.right =RLS go =FUT =SFP

はい、行きましょうよ

A6: *yáj* =*póij cho* =*ge*, *phújgríkyóij* =*ná* =*ma ca?ou?* *phai?* =*rǒ*  
 that =ESS say =COND Buddhist.monastery =place.near =LOC book read =SEQ  
 =*?ətóij cǒij -niij* =*me*.

=at.the.same.time wait -CONT =IRR

そのように言うなら、お寺の近くで本を読みながら待っています

C3: *ŋa θǔ* =*bóij* =*ma lá* =*re* =*kha* *?əmré=dóij mǔjdi* *yu* =*rǒ lá* =*re*.

1 3.OBL =place.near =LOC go =RLS =CL:time often =every rice.noodle take =SEQ go =RLS

私は彼のところに行くときはいつも米麺を持っています

C4: *la?chəŋ ?əne* =*nǎ* *we* =*rǒ lá -rǎ* =*me*.

gift state =COM buy =SEQ go -can =IRR

おみやげとして買って行くことができます

A7: *hou?* =*te*, *rǎ* =*re*.

be.right =RLS can =RLS

はい、できます

C5: *təná* =*kha* *lá -khǐ* =*me*.

for.a.while =time.when go -ANDV =IRR

しばらくしたら行ってみます

注 *-khǐ* “-ANDV” は「行って～する」という意味の助動詞である。主語は一人称で、*=me* “=IRR” に先行する例しか確認されていない。類似した助動詞に *-khi* があり、そちらは一人称以外でもちいられるようである。ビルマ語の *-khê* に対応するようにみえる。ただし、このビルマ語の形式に直接的に対応するマルマ語の形式は、音対応から判断して *-khǎ* “-VEN” である。

C6: *yə* =*hlə?* =*pya* =*hnóij*.

that =almost =PRF =SFP

これくらいですね (それじゃあね)

(16)A1: *?əŋthwáij marəma +thəŋ* =*ma ja* *lou?* =*phǒ lá* =*ca* =*lé?*

PSN Marma +circle =LOC what work(v) =PURP come =NMLS =CQ

オン・トワインはマルマ地域に何をするために来たのですか

注 *marəma+thəŋ* “Marma+circle” とは、マルマ人の王の支配地域のことであり、現地では「マルマ・サークル (Marma Circle)」とよばれる。現在の行政区分としては、チッタゴン丘陵のバンドルバン県に相当する。本稿では「マルマ地域」と訳した。

B1: *ŋa marəma +cəgá* *taŋ* =*phǒ marəma +thəŋ* =*go lá* =*ca*.

1 Marma +language learn =PURP Marma +circle =OBJ come =NMLS

私はマルマ語を学ぶためにマルマ地域に来たのです

A2: *marəma +thəŋ* =*go rǒ?* =*ca* *ja* =*hlə?* *hǐj* =*bya* =*lé?*

Marma +circle =OBJ arrive =NMLS what =almost exist =PRF =CQ

マルマ地域に着いたのは、すでにどれくらいですか

B2: *che =lǎ =hlɔʔ hǐŋ =bya.*

ten =CL:month =almost exist =PRF

すでに十ヶ月ほどです

A3: *marəma +thɔŋ mə- la =khaŋ =gǎ yáŋ =ma taŋ +thá =ca =lɔʔ*

Marma +circle NEG- come =time.before =ABL that =LOC learn +put =NMLS =PQ

マルマ地域に来ないうちから、あちら（日本）で学んでおいたのですか

B3: *lúŋwǎ mə- taŋ -khǎ.*

absolutely NEG- learn -VEN

まったく学んできませんでした

B4: *də =dö rɔʔ =hma cǎ =rö taŋ =ca.*

this =ALL arrive =only.after begin =SEQ learn =NMLS

こちらに着いてからはじめて学びはじめたのです

A4: *che =lǎ =nǎ də =hlɔʔ prɔ -daiʔ =ca =lɔʔ*

ten =CL:month =COM this =almost speak -can =NMLS =PQ

十ヶ月でこれくらい話すことができるのですか

A5: *ʔǎiŋʔɔ -jəra kɔŋ =re.*

be.surprised -NMLS:things.to.dobe.good =RLS

驚くべきことですね

B5: *ʔəyaŋ prɔ -daiʔ =yɔŋ tɔdɔ krújá -rǎ =re.*

fast speak -can =so.as.to quite make.an.effort -must =RLS

はやく話すことができるように、とても努力しなければなりませんでした

A6: *marəma +tékhraŋ =lé cho -daiʔ =te =lɔʔ*

Marma +song =too say -can =RLS =PQ

マルマの歌も言う（歌う）ことはできますか

A7: *cho -daiʔ =ke, tə =bouʔ =hlɔʔ cho prǎ =jaiŋ.*

say -can =COND one =CL:song =almost say show =IMP

言う（歌う）ことができるなら、一曲ほど言って（歌って）みせてください

B6: *tékhraŋ cho prǎ =phǒ hraʔ =te.*

song say show =FUT be.ashamed.of =RLS

歌を言って（歌って）みせるのは恥ずかしいです

B7: *nɔʔ =kǎ (=ra) cho prǎ =me.*

next =ABL =EMPH say show =IRR

またの機会に言って（歌って）みせます

(17)A1: *ŋa marəma +thəŋ rɔʔ =kədóij =gǎ =baŋ lɔŋki tə =kha =lé mə- waiʔ*  
 1 Marma +circle arrive =since =ABL =EMPH loin.cloth one =CL:time =even NEG- wear  
 -phú.

-EXP

私はマルマ地域に来て以来、腰布を一度も履いたことがないです

注 =kədóij=gǎ(=baŋ) が全体で「～して以来」という意味である。

A2: *de =ʔəkróŋ =ma ʔəgũ lɔŋki we -khi =phǒ.*

this =reason =LOC now loin.cloth buy -ANDV =FUT

この理由で、今、腰布を買いに行きます

A3: *marəma +thəŋ =ma niŋ -dúŋ =kha lɔŋki waiʔ =ke, kóŋ =re, mə- houʔ*

Marma +circle =LOC stay -CONT =CL:time loin.cloth wear =COND be.good =RLS NEG- be.right  
 =lɔʔ

=PQ

マルマ地域に居るあいだは、腰布を履くといいです、そうではないですか

注 =dúŋ=kha は動詞に後続して全体で「～しているあいだ」という意味である。

B1: *houʔ =te.*

be.right =RLS

はい

B2: *lɔŋki waiʔ -θǎŋ =re.*

loin.cloth wear -should =RLS

腰布を履くべきです

B3: *ʔəŋthwáij =gá lɔŋki waiʔ =rǒ hǐŋ =ge, naiŋŋaiŋkráθá =hǒ be θu*

PSN =TOP loin.cloth wear =SEQ exist =COND foreigner =QUOT which someone  
 =lé θǐ =phǒ mə- houʔ.

=too know =FUT NEG- be.right

オン・トワインが腰布を履いていれば、外国人と誰かがわかることはないでしょう

注 be が疑問語として使用されることはすくなく、この例のように不定の意味で使用される傾向にある。疑問語としては ja が一般的である。

A4: *de lɔŋki ja =hlɔʔ =léʔ*

this loin.cloth what =almost =CQ

この腰布はどれくらい (いくら) ですか

C1: *tə -thəŋ.*

one -thousand

千 (タカ) です

A5: *jí krí =re.*

price be.big =RLS

値段が大きい (高い) です

A6: *jí fǒ =mai.*

price decrease =HRT  
値段を下げてください

C2: *de jí hmaiŋ =re.*

this price be.correct =RLS  
この値段は正しいです

C3: *fǒ =rǒ mǝ- rǎ.*

decrease =SEQ NEG- can  
下げることはできません

A7: *fɔi? +ra thá =phǒ =lǒ?*

eight +hundred put =FUT =PQ  
八百 (タカ) にしますか

C4: *yáj =pɔiŋ cho =ge, fɔi? +ra +ŋá +che thá +pí =me.*

that =ESS say =COND eight +hundred +five +ten put +give =IRR  
そのように言うなら、八百五十 (タカ) にしてあげましょう

C5: *de =tha? fǒ =rǒ mǝ- rǎ.*

this =than decrease =SEQ NEG- can  
これよりも下げることはできません

(18)A1: *dou?khǎ =ye, coi? ŋyoi? =te.*

unhappiness =SFP heart be.dirty =RLS  
嫌だなあ、気分が悪い

A2: *khaiŋtha +lúŋbrai? cwai? -lǎkhǎ =bya.*

body +whole be.wet -CMPL.VEN =PRF  
体全体がすでに濡れてしまった

注 -*lǎkhǎ* “-CMPL.VEN” は、非一人称主語でのみあらわれるようである。

B1: *ja phroi? =ca =lé?*

what become =NMLS =CQ  
何が起こったのですか

B2: *mú pǐ -lǎkhǎ =ca =lǒ?*

rain be.pressed.down -CMPL.VEN =NMLS =PQ  
雨に降られたのですか

A3: *hou? =te.*

be.right =RLS  
はい

- A4: *thí mə- pa =bóij wiŋ =gǎ thwɔʔ la -mwĩŋ =re.*  
 umbrella NEG- be.with =NEG.SEQ house =ABL go.out come -unintentionally =RLS  
 傘を持たずに家からうっかり出てきてしまいました  
 注 *-mwĩŋ* “-unintentionally” は動詞 *mwĩŋ* “forget” が助動詞として使用されているものである。
- A5: *də =hloʔ ʔəmyá mú rwa =me mə- thaŋ =rama.*  
 this =almost many rain rain(v) =IRR NEG- think =because  
 これほどたくさん雨が降ると思わなかったの
- B3: *cwiʔtəgój (=ma) cho =ge, mú +raθi =ma niŋdój =pɔij də =hloʔ rwa =re*  
 PLN =LOC say =COND rain +season =LOC everyday =ESS this =almost rain(v) =RLS  
 =ye.  
 =SFP  
 チッタゴンと言えば、雨季には毎日これくらい雨が降りますよ
- A6: *hnaʔphraiŋ =kha =gá rwa =phǒ =lóʔ*  
 tomorrow =CL:time =TOP rain(v) =FUT =PQ  
 明日は降りますか
- B4: *rwa -khyay =ge, rwa =phǒ.*  
 rain(v) -want =COND rain(v) =FUT  
 降りたいなら降るでしょう (降るかもしれません)
- A7: *ŋa =gá jəpaiŋ lumyú phrɔiʔ =rama kójgój mə- θi.*  
 I =TOP Japan people become =because very NEG- know  
 私は日本人なので、よく知らないです
- A8: *ŋa jəpaiŋ =ma niŋ -dúŋ =kha ja =go lá lá thí mə- pa =bóij lá*  
 I Japan =LOC stay -CONT =CL:time what =OBJ go go umbrella NEG- be.with =NEG.SEQ go  
 =phǒ ʔá =re.  
 =FUT be.accustomed.to =RLS  
 私が日本に居るときは、どこへ行くときも傘を持たずに行く習慣がありました  
 注 *ja* におなじ動詞を二回連続して付加することにより、「たとえ～でも」という意味をあらわす。
- B5: *de myaʔhna +θouʔ +pəwa =nǎ ʔəpráj θouʔ -pəloiʔ =mai.*  
 this face +wipe +cloth =COM fast wipe -CMPL =HRT  
 このハンカチではやく顔を拭いてしまいなさい  
 注 *-pəloiʔ* “-CMPL” は *loiʔ-loiʔ* “shoot-CMPL” が縮約した形式であると話者から説明されることがある。ただし、縮約していない形式は未確認である。
- B6: *ʔəʔí mwĩŋ =phǒ krój -rǎ =rama.*  
 cold reach =FUT fear -can =because  
 風邪をひくと怖いから



(19)A1: *ŋa hnaʔphraiŋ (=kha) dəgá lá -rǎ =phǒ.*

1 tomorrow =time.when PLN go -must =FUT

私は明日ダカに行かなければなりません

A2: *gari =nǎ loiʔ (=rǒ) pǒ (=rǒ) pí =phǒ (=ca) lu =go hra -niŋ =ca.*

car =COM follow =SEQ send =SEQ give =FUT =NMLS man =OBJ search -CONT =NMLS

車についてきて送ってくれる人を探しているのです

注 名詞修飾表現において未来の事態を表現するときには、*=phǒ=ca* “=FUT” だけでなく *=phǒ=ca* “=FUT=NMLS” によっても名詞修飾節を形成することができる。

B1: *ŋa loiʔ +pǒ -rǎ =ji.*

1 follow +send -can =OPT

私がついていって送ることができますように (私に送らせてください)

注 祈願をあらわす *=ji* “=OPT” は、(19) A9 であらわれる使役の助動詞 *-ji* と本来的にはおなじものであるとおもわれる。ただし、使役のときは動詞に直接つくから接辞である一方、祈願は (20) B4 のように *=ba* “=POL” に後続しうるので接語である。

B2: *chəramǎ =ʔətʷəʔ cho =ge, ku.ŋyiŋ (pí) -rǎ =phǒ (=gá).*

teacher.female =for say =COND help(v) give -must =FUT =TOP

先生のためと言うなら、助けてあげるべきです

注 *=ʔətʷəʔ* “=for” をもちいて名詞修飾表現を形成することもできる: 「彼のための本」 *θü=ʔətʷəʔ caʔouʔ* “3.OBL=for book”。

A3: *kíjü taŋ =re.*

thank put.on =RLS

ありがとうございます

A4: *ŋǎ gari =gá pyaʔ -ləkhǎ =bya =nǎ tu =re.*

1.OBL car =TOP break -CMPL.VEN =PRF =COM be.similar =RLS

私の車は壊れてしまったのと同じです

A5: *caʔ hnú =rǒ =ra mǎ- rǎ -li =bya.*

machine wake.up =SEQ =EMPH NEG- can -CMPL =PRF

エンジンをかけても、もうできなくなりました

B3: *ŋa pyaŋ =rǒ pí =phǒ.*

1 repair =SEQ give =FUT

私が直してあげます

B4: *ŋa =gá caʔ cho =ge, ja mǎ- cho kǒ =ma ko pyaŋ -daiʔ =te.*

1 =TOP machine say =COND what NEG- say self.OBL =LOC self repair -can =RLS

私は機械と言え、何であれ、自分で直すことができます

A6: *houʔ (=te) =lǒʔ*

be.right =RLS =PQ

そうですか

A7: ʔəgũ =hma θĩ =re.

now =only.after know =RLS

今はじめて知りました

A8: mə- taiʔ -khyaj =yɔŋ chɔŋ -khǎ =ca =lɔʔ

NEG- can -want =so.as.to pretend.to.do -VEN =NMLS =PQ

できないふりをしていたのですか

A9: nɔʔ tə =kha tə =khũ tə =khũ pyaj -jəra hĩŋ =ge,  
next one =CL:time one =CL:thing one =CL:thing repair -NMLS:thing.to.do exist =COND  
ʔɔŋthwáinj =go pyaj -ji =phǒ.

PSN =OBJ repair -CAUS =FUT

次に一回何か直すべきものがあれば、オン・トワインに直させます

注 使役をあらわすには -ji “-CAUS” だけでなく、動詞 khóinj “order” に由来する助動詞 -khóinj を使用することもできる。

B5: houʔ =te, rá =re, chəramǎ.

be.right =RLS can =RLS teacher.female

はい、できます、先生

(20)A1: ʔɔŋthwáinj jə =kha jəpaiŋ (=go) praiŋ =phǒ =léʔ

PSN what =time.when Japan =OBJ return =FUT =CQ

オン・トワインはいつ日本に戻りますか

B1: hnoʔiʔ =lǎ =ʔəprouʔ (=kha) praiŋ =phǒ.

two =CL:month =time.after =time.when return =FUT

二ヶ月後に戻ります

B2: ʔəcoʔiʔcoʔiʔ =ma =gá kóŋgóŋ mə- praiŋ -khyaj =θĩ.

real =LOC =TOP very NEG- return -want =still

本当はまだ戻りたくありません

A2: jə =kha marəma +thɔŋ =go praiŋ la =phǒ =léʔ

what =time.when Marma +circle =OBJ return come =FUT =CQ

いつマルマ地域に戻ってきますか

B3: phrɔʔiʔ -hnoʔiŋ =ge, de hnoʔiʔ =thé =ma nɔʔ tə =kha praiŋ la =phǒ.

become -can =COND this year =place.inside =LOC next one =CL:time return come =FUT

できるなら今年の内にもう一度戻ってきたいです

B4: ʔəyaj praiŋ la -hnoʔiŋ =ba =ji =hǒ chũ +tóŋ +pí =mai.

fast return come -can =POL =OPT =QUOT prayer +ask.for +give =HRT

はやく戻ってこられるようにと祈りをささげてください

注 この =ba “=POL” は省略できないようである。

A3: *yə =dō praiŋ rɔʔ =ke, ɲə =rō =go mwĩŋ +lá =phō thaŋ =re.*  
 that =ALL return arrive =COND 1 =PL =OBJ forget +go =FUT think =RLS  
 あちら (日本) に戻り着いたら、私たちを忘れていくと思います  
 注 *ɲə=rō* “1=PL” は *ɲa=rō* “1=PL” が縮約した形式である。

B5: *ɲa tə =kha =lé marəma +thəŋ =go mwĩŋ =phō mə- houʔ.*  
 1 one =CL:time =too Marma +circle =OBJ forget =FUT NEG- be.right  
 私は一度もマルマ地域を忘れることはありません

A4: *jəpaiŋ praiŋ (=rō) rɔʔ -prí =ge, ja louʔ =phō =léʔ*  
 Japan return =SEQ arrive -end =COND what work(v) =FUT =CQ  
 日本に戻り着きおえたら、何をしますか

B6: *marəma +ʔəcáʔəca =nă paiʔθaiʔ =ca caʔouʔ =ko rwí =phō coiʔ +kú +thá*  
 Marma +food =COM be.related =NMLS book =OBJ write =FUT heart +cross.over +put  
 =re.  
 =RLS  
 マルマの食事に関係する本を書こうと心に決めています

#### 記号・略号一覧

|                   |                     |
|-------------------|---------------------|
| <A>               | A は文字転写             |
| /A/               | A は音素表記             |
| [A]               | A は音声表記             |
| (A)               | A は任意の要素            |
| A > B             | A は B に変化する         |
| A B               | A と B は条件変異         |
| +                 | 複合語境界               |
| -                 | 接辞境界                |
| =                 | 接語境界                |
| 1, 3              | 人称 (それぞれ 1 人称、3 人称) |
| ABL (ABLative)    | 奪格                  |
| ALL (ALLative)    | 方向格                 |
| C (Consonant)     | 子音                  |
| CAUS (CAUSative)  | 使役                  |
| CL (CLassifier)   | 類別詞                 |
| CMPL (CoMPLetive) | 完遂                  |
| COL (COlective)   | 集合                  |
| COM (COMitative)  | 共同格                 |

|                               |        |
|-------------------------------|--------|
| COND (CONDitional)            | 条件     |
| CONT (CONTinuous)             | 継続     |
| CQ (Content Question marker)  | 補足疑問標識 |
| DEF (DEFinite marker)         | 特定     |
| DIM (DIMinutive)              | 指小辞    |
| EMPH (EMPHatic)               | 強意     |
| ESS (ESSive)                  | 様態格    |
| EXP (EXPeriential)            | 経験     |
| FUT (FUTure)                  | 未来     |
| HRT (HoRTative)               | 勧誘     |
| HS (HearSay)                  | 伝聞     |
| IMP (IMPerative)              | 命令     |
| IRR (IRRealis)                | 非現実法   |
| LOC (LOCative)                | 場所格    |
| n (noun)                      | 名詞     |
| NEG (NEGative)                | 否定     |
| NMLS (NoMinaLiSer)            | 名詞化標識  |
| OBJ (OBJective)               | 目的格    |
| OBL (OBLique)                 | 斜格     |
| OPT (OPTative)                | 祈願     |
| PL (PLural)                   | 複数     |
| PLN (PLace Name)              | 地名     |
| POL (POLite)                  | 丁寧     |
| PQ (Polar Question marker)    | 諾否疑問標識 |
| PRF (PeRFect)                 | 完了     |
| PRFX (PReFiX)                 | 接頭辞    |
| PSN (PerSonal Name)           | 人名     |
| PURP (PURPositive)            | 動作目的   |
| QUOT (QUOTative)              | 引用     |
| RLS (ReaLiS)                  | 現実法    |
| SEQ (SEQuential)              | 継起     |
| SFP (Sentence Final Particle) | 文末小辞   |
| SpB (Spoken Burmese)          | 口語ビルマ語 |
| SUPL (SUPerLative)            | 最上級    |

|                            |        |
|----------------------------|--------|
| TOP (TOPic)                | 主題     |
| v (verb)                   | 動詞     |
| V (Vowel)                  | 母音     |
| VEN (VENitive)             | 来辞     |
| VOC (VOCative)             | 呼格     |
| VPL (Verbal PLural marker) | 動詞複数標識 |
| WrB (Written Burmese)      | 文語ビルマ語 |

### 参考文献

- 大塚行誠. 2014. 「ビルマ語パロー方言基礎語彙」『アジア・アフリカの言語と言語学』 8: 163–200.
- 加藤昌彦. 1998. 『エクスプレス・ビルマ語』 白水社.
- 加藤昌彦. 2015. 『ニューエクスプレス・ビルマ語』 白水社.
- 藤原敬介. 2003. 「マルマ語の音声に関する考察」『京都大学言語学研究』 22: 237–300.
- 藤原敬介. 2011. 「マルマ人の文字」『遡河』 16: 67–73.
- 藤原敬介. 2015. 「マルマ語の民話「三つのねがい」」『印度民俗研究』 14: 99–116.
- Ashaduzzaman, Mohammad and Md. Mostafa Rashel. 2007–2008. Morphosyntactic analysis of Marma language. *The CDR Journal* 3/4: 143–156.
- Bernot, Denise. 1958. Rapports phonétiques entre le dialecte marma et le birman. *Bulletin de la société de linguistique de Paris* 53: 273–294.
- Bernot, Denise. 1966. “Êtes-vous fâchée, Belle-Mère?,” Conte Marma. In Ba Shin et al. (eds.), *Papers on Asian history, religion, languages, literature, music folklore, and anthropology: essays offered to G. H. Luce by his colleagues and friends in honour of his seventy-fifth birthday*, vol. I. Ascona, Switzerland: Artibus Asiæ Publishers. pp. 59–66.
- Davis, Heidi A. 2014. Consonant correspondences of Burmese, Rakhine and Marma with initial implications for historical relationships. MA Thesis, University of North Dakota.
- Huziwara, Keisuke. 2008. An overview of grammatical particles in Marma. Paper presented at the 41st International Conference on the Sino-Tibetan Languages and Linguistics, SOAS, University of London, UK.
- Huziwara, Keisuke. 2011. Nominalization and related phenomena in Marma. In G. Hyslop, S. Morey and M. W. Post (eds.), *North East Indian Linguistics Volume 3*. New Delhi: Cambridge University Press India. pp. 105–119.
- Kato, Atsuhiko and Khin Pale. 2012. The Myeik (Beik) dialect of Burmese: sounds, conversational texts, and basic vocabulary. 『アジア・アフリカ言語文化研究』 83: 117–160.
- Kurabe, Keita. 2012. Jingpho dialogue texts with grammatical notes. 『アジア・アフリカの言語と言語学』 7: 121–153.
- Maggard, Loren, Sayed Ahmad and Mridul Sangma. 2007. *The Marma and Rakhine communities*

*of Bangladesh: a sociolinguistic survey*. Dhaka: SIL Bangladesh.

Vittrant, Alice. 2015. Expressing motion: the contribution of Southeast Asian languages with reference to East Asian languages. In N. J. Enfield and Bernard Comrie (eds.), *The languages of Mainland Southeast Asia: the state of the art*. Berlin: De Gruyter Mouton. pp. 586–631.

(附記) 草稿段階で加藤昌彦氏と倉部慶太氏から有益なご意見をいただいた。本稿は科学研究費補助金（課題番号 16K02691）による研究成果の一部である。

受理日 2017 年 4 月 10 日